

## 1) 小樽市指定地域福祉教育懇談会 (手宮中央小学校、潮見台中学校、北陵中学校)

### 「市内小中学校による活動発表と地域住民との懇談会」

報告者：北海道社会福祉協議会 福祉教育専門委員会委員 児玉 稔

- ・視 察 日 時：平成30年12月1日(土) 13:00~15:25
- ・視 察 場 所：小樽市総合福祉センター 4階 研修室

小樽市社会福祉協議会では、各校における「総合的な学習の時間」やボランティア体験活動に協力するなど、学童・生徒のボランティア活動普及事業をとおして、社会福祉への関心を高めるとともに、子どもたちが「共に生きる力」をはぐくむための福祉の学習の推進に着実に取り組んできており、その成果は大変素晴らしいものである。

#### 1 各学校の発表

##### ①小樽市立潮見台中学校

今年度指定2年目の協力校である。昨年度は、参加した潮ねりこみ活動において、PTAと協力をして参加することができ、全学年でのかかわりのできた活動である。また、清掃活動についても、通学路のきれいにする取り組みを長く続けており、あいさつ運動と募金活動を一緒に行っているのも、よいアイデアである。

今後は、近い将来に小樽市でもコミュニティ・スクール制度が始まることから、今まで以上に学校と地域との連携が大切になる。

生徒会による「地域を知ろう」では、小樽市内の子どもたちに、外に出て散策し市内の魅力を再発見できるよう、フィールドワークや壁新聞の作成・掲示による情報発信を行っていた。

地域懇談では、地域の方から生徒会による活動の企画について質問が出されていたが、生徒会の生徒からは、基本的には生徒主導で企画し活動を実施しているとのことである。また、胆振東部地震による停電の際には、民生委員が高齢の一人暮らしの方々に声をかけて回るなどしたが、今後はみんなが協力をしていくことが大事であるといった話題も出ていた。

説明は、パワーポイントを使用しながら生徒会の生徒が交代して、わかりやすく説明をしていた。



##### ②小樽市立手宮中央小学校

指定初年度の協力校であり、平成28年4月から4校の統合により新設された学校である。

統合前の色内小学校の伝統を引き継ぎ、観光ボランティア「小樽観光案内人」から指導を受け、5~6年生

児童が総合的な学習の時間を利用し、「小樽観光案内人ジュニア」として市内の各観光地で小樽観光ガイドを行っている。

「小樽観光案内人ジュニア」における6年生の活動としては、修学旅行の自主研修で新千歳空港にいる観光客に小樽や北海道の魅力をインタビュー形式で聞き取りを行ったほか、実際に児童が観光地に出向き観光客へ案内人として説明を行った。説明文章は児童が暗記し、自作のポスター等を掲げながら説明を行った。



### ③小樽市立北陵中学校

指定初年度の協力校で、こちらも統合された学校である。

2001年に小樽市文化財に指定された伝統芸能「高島越後盆踊り」の体験学習や、ケアハウス「はる」への図書貸し出し、文化祭招待等の交流事業のほか、合唱部による合唱発表の慰問活動を積極的に行っている。

「潮音頭」には学校全体で、「スポーツGOMI 拾いおたる北運河」には部活動単位等、地域の行事にも参加した。説明は、パワーポイントを使用しながら生徒会の生徒が交代して、わかりやすく説明をしていた。

両校を交えた地域懇談では、豊川町内会より、月に一回「とよかわ喫茶なごみ」を開いているが、地域と学校のコラボとして北陵中の合唱部に歌いに来てもらい、皆真剣に聴いていたこともあって、またお願いしたいとのことであった。また、小学校と中学校の交流についての質問も出されていたが、小・中の9年間でどのように子どもを育てていくかという目標を共有し、年に5回教職員で協議会を開いている。今後は、潮祭りの梯団で、地域の小学校2校と中学校1校のPTAが仲立ちとなって一緒に踊る構想がある。

来年からは、地域と学校の間にもっと結びつきができるようコミュニティ・スクール制度が導入されるとの



紹介もあった。

## 2 提言・まとめ

### 「福祉について考えよう」

北海道社会福祉協議会 福祉専門委員 児玉 稔

「福祉」や「ボランティア」についての考え方などについては、全国各地の社会福祉協議会のWebページに掲載されているものが数多くあり、今回はいくつかの社会福祉協議会に掲載している内容を引用し、紹介した。

内容としては、小学生から高校生までの授業展開を意識しながら、言葉の意味を考えるワークショップなども取り入れ、参加者が一緒に考えながら進められるような展開とした。また、特別支援教育についても考えていただく機会となるよう、道内の特別支援学校の設置状況や障害種別の設置状況などについて紹介をするとともに、障害に関連づけた問題を提示しながら、支援のあり方や障害のある方々の困難について考えていただくようなクイズ形式の展開とした。

まとめとして、得意なことには磨きをかけ、苦手なことにはあきらめずに取り組むことで自信をもって取り組めるようになり、自己肯定感の向上につながることも伝えた。

最後に「すべてのこたえを『相手』から…」という姿勢をもってボランティア等に取り組むことで、楽しく多くのことを学べるようになるということを提言した。

## 3 全体の感想

今年度、潮見台中学校、手宮中央小学校、北陵中学校の3校から発表があったが、それぞれ素晴らしい取り組みをしており、具体的な活動内容についての成果が報告された。3校とも優れた実践を積み上げてきていることは、各校において、校長、教頭、担当教諭を中心に、すべての先生方が、「共に生きる力」をはぐくむため、福祉の学習の推進に向けて取り組んできていることが理解できた。

地域の連合町内会、ボランティア団体、個人ボランティア、老人クラブ、民生児童委員、連携施設の職員等々、多くの方々と連携・協力し、情報の共有を意識しながら活動を推進してきている状況が感じられた。

今後は、胆振東部地震を機に高まった「地域で防災を！」という考え方を大切にし、地域懇談の中でも出されていた避難体制の整備など様々な面での「連携」の重要性を意識しながら取り組みに生かして欲しいところである。